



喜多埜

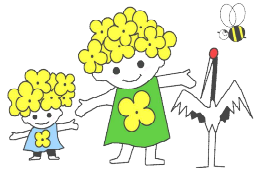
茶屋町 菜の花イベント

茶屋町はかつて、菜種油を採取する為の菜の花がたくさん植えられており、俳人の与謝蕪村が「菜の花や 月は東に 日は西に」と詠んだほどの絶景であったといわれています。

平成二十一年より、そういった菜の花の縁を通じて、茶屋町・鶴野町という、賑わいがあり、更に歴史もある地域の文化性をさらに豊かにし、人と人とのつながりを深める事を目的にして、地域の有志によって構成された「鶴乃茶屋倶楽部」を中心に「菜の花の散歩道」と題してイベントが企画されています。

本年は、三月二十四日、二十五日の両日、茶屋町において、大道芸やミニコンサートなど様々なイベントが執り行なわれる予定です。また、三月中旬頃から茶屋町・鶴野町界隈では、茶屋町で育てられた菜の花が飾られ、現在、推し進められています。「梅田ミツバチプロジェクト」のミツバチたちも茶屋町・鶴野町の空を駆けめぐる事でしょつ。

当神社の御旅社におきましても、桂三金さんによる落語会を催す予定です。詳細は今後ポスターや、当宮のホームページなどで告知いたします。ぜひ、三月二十四日、二十五日は茶屋町・鶴野町にお越し下さい。



「菜の花の散歩道」
マスコットキャラクター
なのだっち

神社豆知識 「参道」

参道とは読んで字の如く、「社寺にお参りする為の道」の事で、狭義には鳥居から本殿までの境内の中の道を指し、広義には門前町などの町の入口のから本殿までの広域を指す場合もあります。中でも一番重要な参道は「表参道(おもてさんどう)」と呼ばれ、東京の明治神宮の表参道などが有名です。

この参道ですが、真ん中は神さまの通り道であるので、参拝者はこれを憚って、道の両脇を歩く做いがあります。ですので、神社によつては参道の石畳の真ん中は色目の違う石を用いたり、石畳を少し高く盛って安易に踏まないようにされているところもあります。

この神さまの通り道というのを端的に表わすのが、お祭りの際に、御神輿など御神霊の移られた乗物は必ず参道の真ん中を通ります。さらに御神輿などが参道から外に出たあとの道の事は「御幸道(みゆきみち)」とも呼ばれ、普段は参道ではありませんが、神さまが御神輿に移られてお出かけされる際に通られる大切な道とされます。当神社におきましては、旧池田街道などがこの御幸道にあたり、往事は神山町の御本社と、茶屋町の御旅社の間を神馬を引き連れて行き交っていたようです。

また参道は産道に繋がるとされ、神さまの元で清らかに心身を生まれ変わるという意味もあり、参道は心の清浄と若やぎを受ける神聖なものともされます。故に神道では特に「道」を大切にされるのかもしれない。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

